

# 《夏の販売準備が始まりました！》

年2回「物資販売」という形で私達が作っている商品を販売しています



## こもれび班

夏限定のレモンクッキーの準備を進めています！！国産レモンを洗って、皮をすりおろして、汁を絞って生地に練り込んでいます。

## すまいる班

すまいる班では手や目の動きから1人1人の力を活かし紙すき作業に取り組んでいます。すきあがった紙はメモ帳の表紙やハガキとなり販売されます。彩り豊かな色合いが魅力的な商品です。

沢山のご注文  
お待ちしております！



## ねくすと

物資販売に向けてふきんの制作中！

原反を折るところから中縫いしてロックミシンをかけている丈夫なふきんです。大忙しで準備を進めています。

\*\*夏の物資販売締め切り：6/15（水）です\*\*

購入希望の方は、ねくすとまでお問い合わせください。



TEL：0263-58-4631

## この街で生きる

### 「移動手段の提案」

障害のある人の、「移動手段」の実情をご存知でしょうか。コムハウスやねくすとを利用されている方々の中には、からだを思うように動かさず常に介助を必要とする人、人工呼吸器や吸引等の医療ケアを必要とする人、自分の意思を伝えたり受け取ったりできず常にガイド役になる人を必要とする人、大勢の人の中では落ち着かず、個別の対応が必要となる人がいる。こうした障がいのある人の移動手段は、基本的に介助者と公共交通機関を利用するように制度では定められている。しかし現実には使えていない。電車やバスに乗るために駅や停留所にアクセスするまでの介助が必要で、オーダーメイドの車椅子では形状により乗れない現実もあるからだ。また、大勢の人の中では落ち着かず、そもそも公共交通機関の利用が困難な人もいる。さらに、タクシーは経費がかかるため、日々の買い物や通院、外出に使うこともできない。結局、障害のある人の「移動手段」は、家族が担うしかなくなる。

「移動手段」がないと、わたしたちの暮らしは成り立たない。

障害のない人の暮らしでは、日々あたり前に移動できていて、特に意識しないことかもしれない。

でも、障がいのある人には、こうしたあたり前の日常を手に入れることが困難な暮らしがある。

障害のある人の暮らしは「0からのスタート」ではない。いつも「マイナスからのスタート」だ。

「0」になってやっと、あたり前の暮らしを手に入れる。障がいのある人は言う、「日常を手に入れること自体が大変」と。障がいのある子をもつ親は言う、「子育てはいつ終わるのか」と。

公共交通機関を使うことが困難な人の移動手段は、ガイド付きで公的な支えがあってほしい。同様に、例えば、高齢ドライバーが免許を返納することで公共交通機関が乗り放題になるなら、事故率低下と路線の縮小はなくなるだろう。こんな公共事業なら、税金の使い道としてうれしい。様々な場所に自由にアクセス(移動)できることを、誰にとってもあたり前の日常にしたい。だから、こんな提案いかがでしょうか。

(ねくすと 施設長 片桐政勝)